

2007 平成19年

いづみ 放水路

7月号 vol.160

Izumo Office of River Chugoku Regional Development Bureau



夏休み特集

特集

神戸川沿川の歴史を調べてみよう

ういだき
雲井滝

神戸川と稗原川に挟まれた朝山森林公園には、神戸川や出雲市内を一望する展望広場や様々な小道が整備されています。その一つ、滝見の道を下っていくと雲井滝が見事な姿を現し、初夏の暑さを和らげてくれます。

夏休み
特集!

神戸川沿川の歴史を調べてみよう。

斐伊川・神戸川の二大河川が流れる出雲市周辺地域は、多くの遺跡が眠っています。斐伊川放水路の工事予定地では、工事をはじめる前に発掘調査を行ないました。その結果、神戸川周辺の歴史が色々と解明されていきました。今月号は、神戸川左岸で発掘された「古志本郷遺跡」を中心にこの地域の歴史を紹介します。



時代	神戸川周辺の歴史年表
縄文時代	<p>1300年前 定住生活が始まる。</p> <p>9000年前 海の水位が下がり、陸地が広がる。</p> <p>6000年前 三田谷に人が住み始める(三田谷 I 遺跡)</p> <p>4000年前 三瓶山が噴火する。神戸川から火砕流が出雲平野へと流れる。</p> <p>3600年前 稲作農耕が伝わる。三瓶山からの火砕流によりつくられた丘を中心に、大きな集落がつかれる。(古志本郷遺跡)</p>
弥生時代	<p>BC 500 四隅突出型の墓がつかれる。(西谷墳墓群)</p> <p>AD 1 加茂岩倉・神庭荒神谷に青銅器が埋められたもの(三田谷 I 遺跡)のころだよ。</p>
古墳・飛鳥時代	<p>300年 古墳がつかられ始める。</p> <p>600年 大型の前方後円墳がつかれる。(今市大念寺古墳、上塩冶築山古墳) 横穴墓がつかれる。(上塩冶横穴墓群・長廻横穴墓群)</p>
奈良・平安時代	<p>700年 律令国家体制となり、国、郡、郷(里)が置かれる。山陰道がつかられ、神門郡の郡家(役所)が古志に置かれる。(古志本郷遺跡、三田谷 I 遺跡)</p>
鎌倉・室町・安土桃山時代	<p>1200年 塩冶氏・古志氏が勢力を広げる。山城(権現山城、大井谷城)がつかられ、その城下に、城下町、山陰道に沿って市場町(古志本郷遺跡)がつかれる。</p>
江戸時代	<p>1600年 松江城がつかれる。山陰道に沿って宿場や商家ができてにぎわう。(古志本郷遺跡) 大井谷で石切が盛んにおこなわれる。(権現山石切場跡) 出雲平野で新田開発がおこなわれる。</p>
現代	<p>昭和47年 梅雨前線が停滞し、松江市内など宍道湖沿岸が1週間以上浸水。</p> <p>昭和58年 斐伊川・神戸川治水対策3点セットが公表される。</p> <p>平成3年 斐伊川放水路工事現場で発掘調査がはじまる。</p> <p>平成13年 現地調査終了。様々な新しい歴史が解明される。</p>

凡 例

- 斐伊川放水路建設予定地(開削部)
- 斐伊川放水路関連遺跡
- その他の遺跡
- 縄文時代の陸線

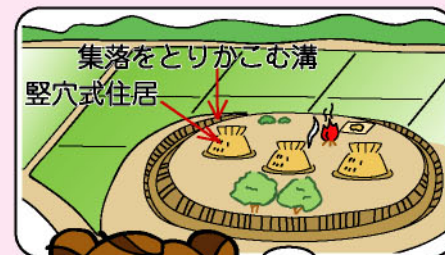
～ 古志本郷遺跡での発見! ～

弥生時代中期 (2000年前ごろ)

溝のあとや竪穴式住居あとが見つかり、たくさんの土器や石器、鉄器など当時の人が使った道具が出てきました。発見された溝のいくつかは、当時この付近にあった集落のまわりを囲む溝の一部と考えられ、この辺りには大きなムラがあり、たくさんの方が生活していたことがわかりました。



①竪穴式住居跡
直径は約5m。竪穴式住居は、地面を掘り下げ、その上に屋根をかけたつくりの建物です。



②溝あととそこから発見されたたくさんの土器
発見された溝あとは、一番広いところでおよそ3m。一番深いところでおよそ1.5mありました。

奈良時代 (1300年前ごろ)

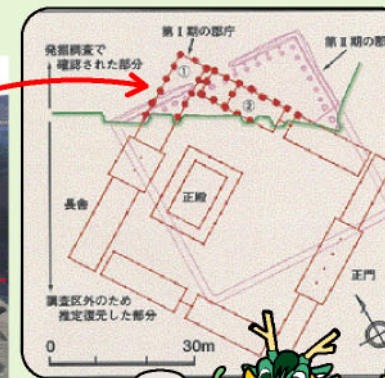
奈良時代ごろのものと思われる、大きな掘立柱建物跡が見つかりました。当時の役人のベルト金具の一部や、すずり、すみで字が書いてある土器なども見つかり、神門郡の郡家(役所)があったと思われます。

①役所にまつわる遺物



見つかったすずりの一部 すみで字が書かれた土器

②掘立柱建物跡



～昔の本からナゾを解く～

「出雲国風土記」に書いてある内容と一致!

713年、律令国家はほうほうの国に対し、特産物、土地の様子、地名の由来、言い伝えなどを記録し、報告するように命じました。これにより作られた本が「出雲国風土記」です。

出雲国風土記には、神門郡の郡家は「古志郷」にあると書かれていました。しかし、その場所はナゾでした。ところが、古志本郷遺跡から郡家の中心部とみられる建物が発見されたのです!

古代出雲歴史博物館には、「出雲国風土記」を書き写した本が展示されているよ。また、昔の暮らしがいろいろとわかるよ。



中世 (800年前ごろ) ～近世 (200年前ごろ)

●中世のムラ

建物、溝、井戸のあとや日本でつくられた陶器、中国や朝鮮から持ち込まれた陶磁器などがたくさん見つかりました。また、中国のお金もたくさん見つかり、いろいろなものがお金を使って、市場で売ったり、買ったりされていたようです。

●江戸時代

山陰道に沿って、町人の生活していたあとが見つかりました。中世に古志氏の拠点として栄えた現在の古志大橋周辺は、江戸時代になっても、陸・川の交通の重要な場所として栄え、宿場や商家が立ち並んでいたようです。

①近世の井戸



②江戸時代のお金



③建物跡



報告

神戸川河川堤防一斉点検を行いました

神戸川は、昨年八月一日に島根県管理の二級河川から一級河川に指定されました。これにより、斐伊川放水路（開削部）と神戸川（拡幅部）は国の直轄管理区間となりました。

そこで、六月十二日（火）にはじめての神戸川堤防一斉点検を行いました。この点検は、出水期を前に国土交通省職員・緊急時対応員等により堤防の点検を行なうものです。

点検の種類は、軽微なものも含め異常があると認められた箇所は約四十九件でした。しかし、緊急的に修繕が必要となる箇所はなく、今後、継続的に点検を行なっていき、経年変化等を確認しながら、必要に応じて修繕を行なっていきます。



神戸川流域情報

志津見ダム定礎式が執り行われました

五月二十七日（日）に志津見ダムの永久堅固を願う定礎式が、島根県知事や飯南町長をはじめ地元地権者約二百二十名の出席のもと、盛大に執り行われました。

礎石には一般的に『定礎』という文字と、定礎式の日付が刻まれることが多いのですが、志津見ダムでは、地元の明るい未来を



礎石



バケット開放による礎石の埋納

担う飯南町立志々小学校の児童が考えた、志津見ダムに対する思いや願いを込めた「命の水 命のダム」「願い 豊かなくらし」という碑文が刻まれました。定礎式を無事に終え、今後は、平成二十二年度末の完成に向け工事を安全に進めていきます。

表紙で紹介した

雲井滝への道順



展望広場からの道は細くて急です。危ないので、子供だけでは行かないでね。



① 県道184号沿いに朝山神社・森林公園の案内板があります。ここを登っていきます。

② 坂道を登りきると、朝山神社と森林公園の入口に到着します。

③ 神戸川、出雲市内を望む展望広場に、滝へと続く小道があります。



国土交通省中国地方整備局 出雲河川事務所

〒693-0023 出雲市塩冶有原町5-1 TEL(0853)21-1850 FAX(0853)22-7829

E-mail: izumo@cgr.mlit.go.jp ホームページ <http://www.izumokasen-mlit.go.jp/>